

# § Branch 通信 §

— Branch の窓から No.5 — 2019.7.25

ブランチ周辺の風景



「Branch」に住人が引越し住み始めたのは昨年7月下旬、そして、今、一年が過ぎようとしています。

どんな生活になっていくのか試行錯誤の毎日ですが、それぞれの日課が分かって来て、お互いの距離の取り方も学んでいるように思います。そして、余裕が出てきたのでしょうか。昨年の夏のことがよく話題に上ります。

一年前、私は家族と住まない覚悟というのでしょうか、今までの家族やつながりとは一線を引き新しい暮らし方を模索する、そのような気持ちで意気込んでいました。けれど、入居者の方を看取り、新しい方を受け入れる中で、今は、それぞれの生きてきた人生には、それぞれの生活してきた家族や取り巻く環境があって、それを持ちながら新しい生活をしているという事に気づきました。共同生活はその上のものでした。

私は、夫が46歳で亡くなり、私と、もう高校生でしたが子供2人が残された時、今までの家族の時間はどうなるのだろうか。3人になったら家族ではなくなってしまうのだろうか、この子達は家庭を知らないで生きていなくてはならないのだろうか？とても戸惑ったことがありました。けれど違いました。私たち家族の周りには、肉親や関わる多くの方がいることを知ることが出来ました。私たち家族は多くの方に支えられて来ました。

夫や私の両親、兄弟は特に過ごした時間の分だけ、多くの思い出があり、その時の会話の一言一言にいまだに、心動かされているのです。いろいろな感情を含めて家族の繋がりであり、その過程があって今があります。

他の同居の方々にも、それぞれ育ってきた環境があり、多くの思い出があるはずですが。たとえどんな小さな思い出でも、毎日の中にしっかりと生きています。

その時、家族だったことが今の生活につながっているのであれば、みんなで暮らすブランチの生活も、今度は、ここが、家族のようなものになっていくのだろうと思います。

家族の形態は、完成したものではなく、そこに集まっている人たちによって作られていく共同体のように思います。ブランチで多世代、多世帯で生活する意味もそこにあるのかもしれません。

皆さんが心を寄せてくださり、安否を尋ねて下さり、訪問して下さいたことを本当に感謝しています。

二年目に入ったブランチも、よろしくお願い致します。



ブランチ通信 No.4 でもお知らせしましたが、『建築とまちづくり』に-金沢の風通り抜ける分棟建築 Branch-が紹介されました。多世帯で住むための配慮が細部になされていることがよく分かりました。記事のコピーを添付致します。



Branch (ブランチ) 山科 (松本)

